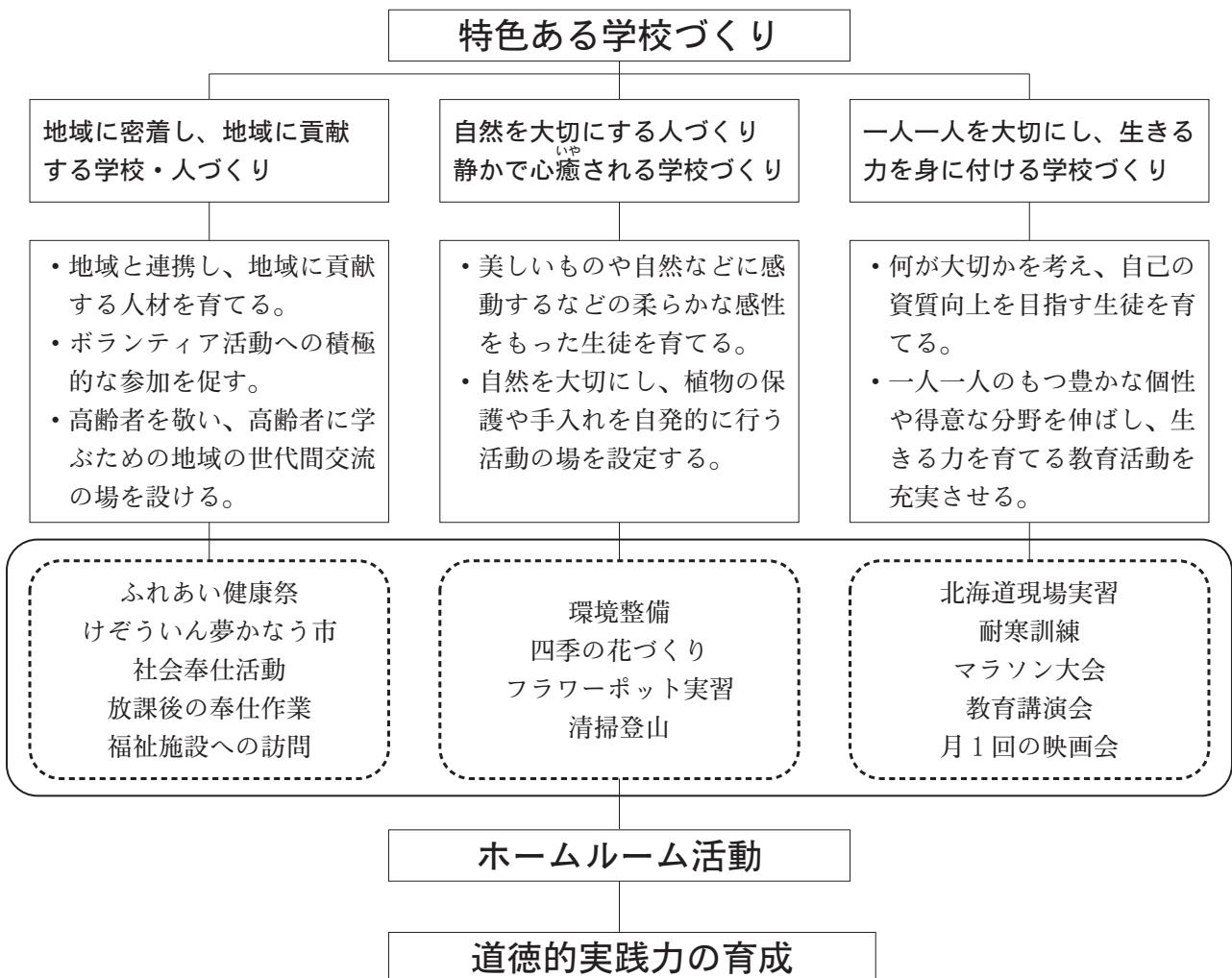


体験活動による「心を育てる」教育の充実と創造

1 はじめに

本校では、自然豊かな環境に位置する農業・家庭科の専門高校としての特色を生かし、従来より道徳的実践の場として、「ふれあい健康祭」「けぞういん夢かなう市」「北海道現場実習」「フラワーポット実習」など数多くの社会参加型体験活動を取り入れた教育を行ってきた。特に「ふれあい健康祭」「けぞういん夢かなう市」は地域と生徒たちの心のふれあい・交流の場として、大きな教育的効果を上げている。

本研究では、こうしたこれまでの体験活動の成果と課題を明らかにし、さらなる充実を図るとともに、生徒の心の教育に資する新たな活動を模索し、生徒の生きる力や豊かな道徳性の育成を目指した。



2 取組の概要

(2) 従来の体験活動の総括

地域住民にアンケートを行い、その結果を基に、地域との効果的な連携の在り方について検討し、活動計画と内容の見直しを図るとともに、実施後に活動の総括を行った。

◆ ふれあい健康祭

この活動は、本校オリジナルの競技やゲームを通して、地域の高齢者を一日かけて精一杯もてなし、世代間の交流を深めることで、人の気持ちを理解することや、奉仕の精神を学ぶことを目的とした地域に根ざした活動である。

□ 地域住民に対するアンケートの実施

・地域住民へのアンケート

活動内容の見直しを行うため、この活動が地域の高齢者にどう受け止められているのかをアンケート調査した。その結果、地域の高齢者は、なかなか知人・友人と出会う機会がなく、本校の行事を機会に、知人や友人だけでなく、世代を越えた交流ができることを期待していることが分かった。



・活動の工夫 ・運営

□ 活動の工夫

- ・ 事前準備と当日の運営

事前準備から当日の進行まで、家庭クラブを中心に、可能な限り生徒の自主性を尊重し、「仕事を任されている」という責任感をもたせるように適宜指導を行った。

・内容

- ・ 競技内容

競技すべてについて、生徒と共に内容を再検討した。生徒と高齢者がふれあい、交流を深められる競技をできるだけ多く現代風にアレンジして復活するとともに、高齢者の体力と健康面を考慮して、危険と思われる競技については削除した。

・配慮

- ・ 健康面・安全面への配慮

競技招集の際、出場者の混乱を避けるため、競技開始前に色分けしたチケットを配付し、出場者の整列がスムーズかつ安全に行えるようにした。

・交流

- ・ 高齢者との交流

校内で育てた花苗のプレゼントと育成方法のアドバイス、生徒全員による見送りなど、行事後も交流を図れるようにした。

・成果と課題

□ 成果と課題

事後のホームルーム活動では、「互いの気持ちを理解することの大切さ、人の役に立っている喜び」を知ったと感想を述べる生徒が多く、この行事が生徒の思いやりの心や互いに認め合い共に生きていく態度の育成に非常に有効な活動であったことが分かった。今後の課題としては、地域の高齢者の方にどの競技に出ただけかを見直したり、体の不自由な人に配慮した新たな競技を検討したりする必要がある。

◆ けぞういん夢かなう市

この活動は、生徒や地域のグループが出店して、毎年4月の中旬から下旬にかけて開催するフリーマーケット形式のバザーである。生徒の公德心の育成を目的にしている。地域住民の交流や生徒の社会体験の場になっており、今年（平成15年）で4回目を迎えた活動である。

・アンケートの実施

□ 参加者に対するアンケートの実施

この活動の地域での普及度を知るため、アンケート調査を実施した。その結果、この活動が地域に受け入れられ、地域住民の交流の活性化という所期の目的が達成できていることが分かった。これは、教職員、生徒による事前の積極的な啓発活動が功を奏した

と思われる。

- 活動の工夫
- 実施計画

- 活動の工夫
 - 実施計画

年度末から年度当初にかけては行事等が集中するため、全体計画を前年度の3月までに決定した。年度初めの負担を軽減し、余裕をもって準備できるようにした。



- 広報活動

- 広報活動

今回は、ちらしによる村内の広報活動に重点を置き、ちらし約500枚を印刷し、生徒会を中心に、放課後、村内を回って各戸に配布した。

- 参加体制

- 参加体制

生徒会、農業クラブ、家庭クラブ、各学年が出店する。これまでは、入学後まもない1年生は見学だけであったが、活動への積極的な参加意識をもたせるために、出店までの細部にわたる計画に学級担任が十分指導を行い、今年度から出店させることとした。

- 運営

- 事前準備と実施

事前準備から当日の店舗運営まで、生徒を中心に言い、可能な限り生徒の自主性を尊重し、「仕事を任されている」という責任感と意欲をもたせるように適宜指導を行った。

- 成果と課題

- 成果と課題

アンケート結果から、まだ新しいこの活動が、地域に根ざしつつあり、地域交流に貢献していることが分かった。また、アンケート結果を基に事前のホームルーム活動で話し合わせたことで、この活動に対する地域の人々の期待感が生徒に伝わり、生徒のやる気を引き出すことができた。今年度から1年生も出店させたが、活動を通して、あまり親しくない者同士の会話が自然と弾み、その後の人間関係の構築がスムーズにできた。

- 責任感と意欲

◆ 北海道現場実習

この活動は、本校第4学年の生徒が、北海道余市町の大規模経営農家に10日間ホームステイし、リンゴの摘果やサクランボの収穫などの農作業を体験するものである。広大な北海道の地で、地元の人々の温かさや労働の厳しさにふれながら寝食を共にする感動体験を通して、生徒の心を育てることを主な目的としている。

- 活動の工夫

- 活動の工夫

- 参加者

- 参加者

これまでの選抜制から、すべての生徒の心を育てるために全員参加を原則とし、特別な事情がある生徒については、本人・保護者の意思を考慮して判断する。



- 交通手段

- 交通手段

「往路フェリー・復路航空機」、「往路復路とも航空機」のどちらかを学校で選択している。往路フェリーには、船中泊など人生で二度とできないであろう貴重な体験ができるというよさがある。しかし、体調・緊張ともに持続している状態で実習に臨める往路飛行機の利用のメリットもある。そこで、その年ごとの生

徒の状況等も十分考慮して判断することにした。

• 実習期間

• 実習期間

生徒の実態と受入農家にかかる負担等を考慮して、実習期間を10日間に短縮したが、作業の効率化と、生徒の「実のある体験」を考え、従来の14日間へ戻す方向で検討した。

• 成果と課題

成果と課題

• 責任感、感受性、協調性

参加した生徒のいずれもが責任感、感受性、協調性等の面で人間的に大きく成長して性、協調性いる。今後も、全員が参加できるように、個々の生徒の状況をしっかり見極めながら支援していきたい。

◆ フラワーポット実習

この活動は、1～4年の農業科生徒が、自分たちが栽培した草花を地域美化に活用し、五條市内や西吉野村内の国道沿いや駅前等のフラワーポットに植え付けるものである。地域住民との交流や生徒の環境に対する意識の向上等を目的としている。従来は五條市の委託事業として実施していたが、平成15年度から運営費の援助は廃止され、本校のボランティア活動として実施している。

• 活動の工夫

活動の工夫

• 活動範囲

• 活動範囲の縮小

委託事業廃止に伴い、フラワーポットを40個と大幅に減少した。数が少なくなった分、時間に追われることが無くなり、生徒もより丁寧に作業を行うことができるようになった。



• 経費

• 運営基盤の変化

委託事業廃止に伴い単独の財源がなくなったため、栽培諸経費及び実習に伴う運搬経費を捻出する問題が出てきた。今後は、栽培経費は一般会計（主に消耗品費）を割り、運搬経費は、村の公用車を借りることで対応する。

• 計画

• 栽培計画の変更

委託事業であったときは失敗が許されないというプレッシャーから、栽培実績のある草花に限定された形で苗を植え付けていた。しかし、ボランティア活動に移行したことで、幅広い視点で植栽計画を考えられるようになった。

• 成果と課題

成果と課題

授業時間に学校から離れて、地元の町で、自分たちが生産にかかわった自慢の草花を植え付けていくこの活動は、生徒にとっては、充実感ややりがいを感じる活動のようである。地域に出向き、住民と交流し、汗をかいて、自分たちの作った草花を植えることで町の景色が変わり、人々に喜ばれる。そして、人のためになることが自分の喜びへとつながることを実感できるなど、この活動は生徒の心の成長に大きく貢献している。

(2) 新たな体験活動の模索

• 清掃登山

◆ 清掃登山

• ねらい

活動のねらい

登山道の清掃活動を通して、団体行動のマナーを学ぶとともに、自然を大切にする心と公德心かんようの涵養を図ることをねらいとして実施した。

・成果と課題

成果と課題

環境美化に対する意識が高まり、放課後等に、校内外の清掃活動にも積極的に参加するようになった。また、活動を通して、自然に触れ、親しみ、最後まで頑張ってやり遂げた充実感をもたせたり、登山におけるマナーを学ばせたりすることができた。



・庭園清掃

・ねらい

◆ 庭園整備

活動のねらい

環境整備の一環として、玄関前の庭園を整備する中で、土に親しみ、生徒と教職員が共に心を癒し、また、植物の保護や手入れを自発的に行う態度を養うことをねらいとして実施した。



・成果と課題

成果と課題

作業を通して学年間の良好な人間関係を構築でき、共に汗を流すことで、生徒同士や教職員との良好な信頼関係も生まれた。また、校内外の美化に対する意識が高まり、少しずつではあるが、自然を愛で、感動する心が芽生えてきたように思われる。

・教育講演会

・ねらい

◆ 教育講演会

活動のねらい

各方面で活躍されている社会人の豊かな経験に基づく講演を聞くことを通して、人間としての在り方生き方について自ら考えようとする姿勢を身に付けることをねらいとして実施した。

・成果と課題

成果と課題

様々な立場の人の話を聞くことにより、人への共感的理解を深め、多様な価値観を知る機会となった。また、語られる「話し手の体験」そのものに心が揺さぶられ、自分を見つめ直し、よりよい生き方を目指そうとする生徒の姿も見られた。

・映画会

・ねらい

◆ 月1回の映画会

活動のねらい

日常の学校生活では出会うことのない迫力ある映像や音楽、ストーリーを、「映画」という媒体を通して体験させることにより、豊かな感性を培うことをねらいとして実施した。

・成果と課題

成果と課題

生徒の映画鑑賞の幅を広げさせることができた。また、映画によっては、上映中に、声を上げて笑ったり、感動の涙を流したりする生徒も多く、この活動を通じて、感動で心を震わせたり、感情を素直に出したりする体験をさせることができた。

(3) 体験活動による心を育てる教育の取組を通して見えてきたもの

- ・内面に根ざした
・道徳性の育
・成
- 学校の教育活動全体において、各活動の特質や生徒の興味・関心を考慮して、豊かな体験活動の充実を図り、生徒の内面に根ざした道徳性が育成されるようにすることが大切である。また、家庭や地域社会は、学校という枠の中では体験できない活動を通して、生徒が人間としての生き方について学ぶ場である。学校が、家庭や地域社会における体験活動をより豊かなものになるよう支援していくことも大切である。

□ 体験活動による心を育てる教育の充実のための留意点

- ・道徳教育の視
・点での教育活
・動の見直し
 - ・活動の充実
 - ・事前指導
 - ・事後指導
 - ・道徳的実践力
・の見取り
 - ・家庭、地域社
・会との連携
 - ・共通理解
- 道徳教育の視点から学校の教育活動全体をとらえ直し、これまでの教育活動の中だけでは十分に生徒の道徳性の育成が図れない場合は、関連する体験活動を新たに計画するなどの見直しを図ること。
- 実施する活動が生徒の心を揺さぶり、自らを見つめる機会となるよう、活動そのものはもとより、事前・事後の指導の充実を図ること。
- ・事前指導……活動の目的を明確にし、課題意識をもって活動に参加できるようにする。
 - ・事後指導……体験活動を通して得られた生徒の内面に根ざした道徳性を、ホームルーム活動において更に補充・深化・統合できるようにする。
- 体験活動を通して、生徒の中で培われつつある「道徳的実践力」が、日常生活の中でどのように発揮されているかを丁寧に見取ること。
- ・家庭、地域社会との連携
- 地域の教育力、人的サポートを積極的に生かしていくために、学校評議員制度などを活用して、学校の説明責任を十分に果たすとともに、家庭や地域社会との連携を深め、互いの役割を明確にし、理解し協力し合いながら取り組むこと。
- 職員研修を計画的・継続的に行い、全教職員の共通理解と協力の下に指導計画を作成し、取り組むこと。

3 成果と課題

- ・地域と共に取
・り組む活動
 - ・ふれあい
 - ・教員の姿勢
 - ・豊かな体験活
・動
 - ・ホームルーム
・活動
- 地域と共に取り組む体験活動を通して、生徒は、自然環境や友人、家族そして地域を大切にしようとする気持ちが高まってきたように感じる。このことは、生徒の様々な活動を支える多くの人々との出会いやふれあいを通して、生徒が自分は人に必要とされ、人の役に立つ存在であることを自覚するとともに、人の気持ちを理解し、思いやる優しさをごく自然な形で身に付けていったからではないだろうか。
- また、様々な体験活動を通して、教職員一人一人が個々の生徒と真摯(しんし)に向き合い、生徒とのかかわりについて改めて振り返り、深く考え直す機会となったことも大きな成果である。
- 今後も、豊かな心を育てる活動を充実させるとともに、体験で得られた様々な気づき、特に道徳的価値のもつ意味や大切さを考えるホームルーム活動等の指導を通して、より確かな道徳的実践力の育成を目指していきたい。

豊かな体験活動の充実……

他の人々や社会の役に立ち自分が価値ある存在であることを実感できるボランティア活動や、自然のすばらしさを味わいそれを愛護しようとする気持ちを実感できる自然体験活動など、豊かな体験活動の充実を通して、生徒の内面に根差した道徳性が育成されるようにすることが大切です。

① 学校生活における体験活動を見直そう

児童生徒の1日の学校生活や行事を見直すと、そこには体験的に学習していることがたくさんあります。道徳的な視点から教育活動全体をとらえ直して見る必要があります。

② 体験活動と道徳の時間及びホームルーム活動との関連を図ろう

学校生活の中で行う豊かな体験活動には次のようなものが考えられます。

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| ○地域の清掃等奉仕活動 | ○農作物栽培等の勤労生産的活動 |
| ○障害のある人、幼児、高齢者等との交流活動 | ○異年齢集団活動 |
| ○自然に親しんだり自然を愛護したりする活動 | ○職場体験 |
| ○国際理解を深める活動 | |
| ○伝統工芸や伝統芸能を愛護したり伝承したりする活動 | など |

単に体験活動をさせるだけでは、その後の児童生徒の思いはまちまちです。豊かな体験活動を通して得られた児童生徒の内面に根差した道徳性を、道徳の時間及びホームルーム活動の時間において更に補充・深化・統合できるようにすることが必要です。

③ 家庭や地域社会との連携を図ろう

豊かな体験活動は、学校だけでなく家庭や地域社会の協力を得ることによってより充実し、道徳的価値の自覚を深めることができます。したがって、体験活動を計画するに当たっては、学校評議員制度などを活用して、家庭や地域社会との連携を深め、常に情報交換をしておくことが大切です。